PROJECT

市民の足を より魅力的で 便利なものへ

サービス低下で進む利用者離れ

首都サラエボを擁し44万人が暮らすサラエボ県はボスニア・ヘルツェゴビナ最大の県です。県中心部は川沿いの盆地に位置し、住宅があるのは盆地を囲む丘陵地帯。人々はミニバスに乗り町へ出て、トラム、バス、トロリーバスなどに乗り換えオフィスや学校へ移動しています。

しかし、市民の足であるこれらの公共交通は、交通公社の経営難で車両や軌道が老朽化しても修理や更新ができない状況でした。その結果、運行台数や運行頻度が維持できず、サービスの質が低下したことで利用者離れが進んでいます。

こうした状況を打開するため、JICAは2020年に利用者目線に立った魅力的で使いやすい公共交通へと改善するプロジェクトを開始しました。

西バルカン地域へと広がる協力効果

プロジェクト開始前の調査で、正確な路線図や時刻表がないことがわかり、現地高校生の協力も得ながら詳細な公共交通マップを作成しました。また、交通量調査も行われていなかったため、プロジェクトでは調査方法や調査結果に基づく需要予測、予測に基づく路線計画策定などについて助言。インフラ更新計画やメンテナンスに関する協力も行っています。

また欧州連合(EU)のドナー国と協力し、公共交通が発達したオーストリアやイタリアで第三国研修を実施。サラエボ県関係者は公共交通の政策や運行管理、車両の維持管理について学びました。

さらに、プロジェクトの知見を西バルカン地域の諸都市と共有するため、公共交通セミナーも計4回開催。セルビアやアルバニア、モンテネグロの関係者も参加し、関係者のネットワークも生まれています。これに加えJICAは、2020年11月にセルビアで「ベオグラード市公共交通改善プロジェクト」も開始しています。

市民の足となる西バルカンの公共交通を魅力的で便利なものへ。JICAは利用者目線に立った改革に協力していきます。

オーストリア：同国第二の都市グラーツで実施した研修に参加する両国の公共交通機関関係者と日本人専門家[写真：株式会社アルメックVPI]

DATA

サラエボ県公共交通管理及び運営能力強化計画策定プロジェクト

対象国
ボスニア・ヘルツェゴビナ

協力期間
2020年10月-2023年10月

VOICE

未来につながる調査を実施しています

JICA専門家
株式会社アルメックVPI　八木貞幸さん

欧州復興開発銀行(EBRD)や欧州投資銀行(EIB)も新車両の投入やトラム軌道の修復など本格的な支援に乗り出しました。現在プロジェクトで実施している包括的な交通調査が、プロジェクト終了後も適切に更新・管理され、サラエボ県の交通改善計画に役立つことを期待し、私たちも強い使命感を持って取り組んでいます。